

## アッラーとは何か？



IslamReligion.com

多くの非ムスリムがイスラームに対して抱いている最大の誤解に、“アッラー”という言葉に関するものがあります。様々な理由により多くの人々は、ムスリムがキリスト教徒やユダヤ教徒と異なる神を崇拝していると信じています。しかしこれは事実と全く異なります。なぜなら“アッラー”とは単純にアラビア語で“神”（唯一神）を指す言葉だからです。ここではっきりさせておきましょう。ムスリムはノア、アブラハム、モーゼ、ダビデ、そしてイエス—彼ら皆に平安あれ—と同じ神を崇拝するのです。しかしながらユダヤ教徒、キリスト教徒、そしてムスリムがそれぞれ全能な神に対して異なる概念を持っていることは事実です。例えばムスリムはユダヤ教徒同様、キリスト教徒の信じる三位一体論とキリストにおける神の顕現を否定します。しかしこのことはこれら三つの宗教がそれぞれ違う神を崇拝していることにはなりません。なぜなら既に述べた通り、真実の神は唯一であるからです。ユダヤ教、キリスト教、そしてイスラームは皆“アブラハムの宗教”であると主張し、それぞれ“一神教”に分類されます。しかしイスラームは、他の宗教が多かれ少なかれ神の正しい教えを疎かにし、またそこに人工的な観念が混ぜ合わされたことによって純粹で正しい全能の神への信仰を無効にし歪曲してしまったのであると説いているのです。

まず“アッラー”は神を指し示す言葉として、アラビア語を話すキリスト教徒とユダヤ教徒にも用いられていることは特筆に値するでしょう。アラビア語の（新約）聖書を手にとってみると英語の“God”という言葉の代わりに“アッラー”と記されています。これはなぜなら“アッラー”という言葉はアラビア語において、英語の“God”（大文字で“G”）という言

葉に値するからです。加えて、“アッラー”という言葉は複数形にすることが出来ないため、これはイスラームにおける神の概念と一致します。

また、イエスが話していた言語であるアラム語での神を指す“El”という言葉が英語の“God”よりも“アッラー”により近いことも興味深い事実です。同様にヘブライ語において神を指す様々な言葉“El”や“Elah”、また賛美形あるいは複数形である“Elohim”などにも当てはまります。これらが似通っている理由としてはアラム語、ヘブライ語、アラビア語はそれぞれセム語と呼ばれ、共通の起源を持つ言語だからです。一方聖書が英語に翻訳される際にヘブライ語の“Elah”が“God”や“god”、“angel”などに翻訳されていることも特筆に値します。この緻密さに欠ける言語は、異なる翻訳家たちがそれぞれの観念のもと、それぞれの都合に合わせて言葉を変更することを許してしまうのです。アラビア語の“アッラー”は唯一全能である神に対してのみ使われるため、そういった難点や曖昧さが入り込む余地はありませんが、英語では虚偽の神を意味する“god”と、唯一・真実の神を意味する“God”との区別をつけるのは単に“G”を大文字にするかどうかだけなのです。こういった事実を鑑みれば、より正確な“アッラー”の英語訳は“The One-and-Only God”（“唯一神”）、もしくは“The One True God”（“唯一かつ真実の神”）といったものの方がより適していると言えるかも知れません。

またより重要な点として、アラビア語の“アッラー”にはその語源に深い宗教的メッセージが含まれていることも注目に値します。“アッラー”の語幹は、“崇拜される”を意味するアラビア語の動詞である、“タアッラハ”（または“アラハ”）です。つまりアラビア語の“アッラー”という言葉は“全ての崇拜に値する者”という意味になります。これは要するに、イスラームの純粹な一神教のメッセージを表しているのです。

誰かが自分のことを“一神教”であるユダヤ教徒、キリスト教徒、またはムスリムだと主張したとしても、その者が墮落した信仰や偶像崇拝的な実践に陥っていないとは限りません。実際ムスリムを含む多くの人々は偶像崇拝的行為に陥っているにも関わらず、“唯一神”の信仰を主張しています。また多くのプロテスタントはカトリック教会を、彼らが諸聖人や聖母マリアへの偶像崇拝的行為を行っているとは非難しています。同様に東方正教会は崇拜時にたびたび聖像を用いるため、多数のキリスト教徒により“偶像崇拝的”であると見なされています。このような事実にも関わらず、カトリック信者や正教会信者があなたの神は“唯一”ですかと尋ねられれば、口をそろえて“イエス！”と答えるでしょう。しかしながらこの主張は、彼らが“創造物を崇拜している”偶像崇拝者である事実とは相容れないので

す。同様に、神々は唯一・最高神による“輪廻”や“化身”だと捉えるヒンドゥー教徒にも同じことが言えるでしょう。

さてこれを締めくくる前に……。真実に耳を傾けない人々の中には、“アッラー”がアラブ人の“god”<sup>[1]</sup>に過ぎず、イスラームは完全に“部外者”であるということ信じさせようとしている一部の人々が存在します。つまりイスラームが他のアブラハムの宗教（キリスト教とユダヤ教）と同源ではないということです。ムスリムが神を“アッラー”と呼ぶからといって別の“God”を信仰していると主張するのは、フランス人は神に対して“Dieu”という言葉を使うから、またスペイン語使用者は神に対して“Dios”という言葉を使うから、あるいはヘブライ語使用者が時に神を“Yahweh”と呼ぶからといって、別の神を崇拝していると主張すること同様、非論理的なことなのです。このような論理は実に滑稽です。また正しい神という言葉を使用しているのはただ一つの言語であると主張することは、数々の異なる言語を話した諸預言者によってもたらされた全ての国家・人種、そして人類に対する神のメッセージの普遍性を否定するのと同じだということにも触れておかなければなりません。

これらの人々の真意は何なのでしょう？ その理由は、イスラームの根本的真実が不変なる礎の上に基づいており、神の唯一性におけるその揺るぎない信仰は批判の付け入る余地が無いからです。それゆえキリスト教徒はその教義を正面から批判出来ず、その代わりに人々の学ぶ意欲を削ぐ目的でイスラームに関して異なる事実を捏造するのです。もしもイスラームが世界に正しい方法で紹介されたのであれば、確実に人々の多くは彼ら自身の信仰を考え直すでしょう。神を崇拝し、愛することを教えるとともに、純粋な一神教を実践する普遍的宗教があることをもし人々が知れば、少なくとも彼らは自身の信仰と教義の再考に迫られるに違いありません。

---

### Footnotes:

[1] これはロバート・モーレイによる著作、「中東の考古学における月の神アッラー」の中で主張されているプロパガンダです。この著作に関する議論は次のリンクで見ることが出来ます：<http://www.islamic-awareness.org/Quran/Sources/Allah/moongod.html>